ひすい

糸魚川市立ひすいの里総合学校

学校だより　９月号（No.９）

令和３年９月３日発行

全員そろっての「始業式」！

“おはようございます！”子どもたちの前に立って朝の挨拶をすると、元気な声がマスク越しに返ってきました。８月２７日（金）は２学期の始業式でした。体育館に子どもたち２６人、職員２５人が全員そろっての式となりまた。１学期の終業式では、「８月２７日（始業式）は、元気に登校します。」と半ば押し付けのように子どもたちと約束した（させた）のですが、見事に全員がその約束（校長のわがまま）を守ってくれました。正直なところ、家で過ごすことが多い夏休みの生活から急に学校が中心となる生活へ変化することから、対応が難しい子どももいるだろうなと思っていたのですが、いい意味で予想を裏切ってくれました。ありがたいことです。

それに、もう一つうれしいことがありました。小学部１年生に転入児童があり、２学期から全校児童生徒数が１名増えたのです。始業式の中で、全校児童生徒に紹介しました。人数の少ない学校にとっては、１人の転入生の存在はとても大きなものです。学校全体が、とても活気づいたような気がしているのは私だけでしょうか。新たな“ひすいっ子”誕生でした。

さて、２学期は「秋」という季節を迎え、何をするにも良い季節と言われます。暑さも山場を越えて過ごしやすくなり、じっくりと落ち着いて物事に取り組めるようになります。始業式の話で「自分は、２学期にどんなことを頑張りますか？」という問いをして、右のスライドを見せました。「勉強をするもよし、スポーツをするもよし、音楽を楽しむもよし…。」また、「挨拶をする、身なりを整える、友達と仲良くする」などの生活に関わることでもいいのです。いずれであっても、自分の目標（見通し）をもってこつこつと積み上げていってほしいと思います。個別の指導計画に「自分のできることを増やす」と書いてあることがあります。その具体を一つでも二つでも明らかにして生活することが大事です。ある日突然、できなかったことができるようになることは決してありません。千里の道も一歩から始まります。

９月末には前期の学習評価をさせていただきます。１０月に入ると学校職員との懇談の機会もあります。よく情報交換をして家庭と学校が協力して、子どもたちの支援に当たることが、子どもたちのよりよい成長につながります。学校職員も子どもたちと一緒に頑張りますので、是非ご家庭でも「実りの秋」となるようご支援をお願いします。

なお、始業式では難しい話ばかりをしたのではありません。しっかりとお楽しみの内容も伝えました。「作品展示、ひすい発表会、〇〇パーティー、どれが一番楽しみですか？」もちろん、「全部！」です。

２学期の教育活動について

２学期がスタートして、１週間が経ちました。元気な子どもたちの声や体育館を走り回る足音が校舎に響き、普段の教育活動が行われていることに喜びを感じています。夏休み中もそうでしたが、ここにきて糸魚川市内で新型コロナウイルスの感染がしばしば報告されるようになり、子どもたち、そしてご家族の皆さんが感染されないかを心配しているところです。

今のところ、ひすいの里総合学校では感染はありませんが、一学期同様にマスク着用や手指消毒、室内換気や三密回避などの予防対策を継続してとっていきます。お子さんが体調不良の場合は登校を控え、通院をお願いします。また、ご家族の健康状態にもご留意ください。保護者の皆さんには、これまで検温や健康観察などの体調管理、県外や人出の多い場所への外出自粛などにご協力をいただいてきたところですが、今後も新型コロナウイルスの状況が落ち着くまで、可能な範囲で継続をお願いします。

現状では、学校の教育活動は原則として感染予防対策をとって予定どおりに実施していくことを考えています。子どもたちの貴重な学習の機会を確保するため、昨年度のように一律に中止するという対応はしません。ただし、現在の感染状況を踏まえて、教育活動と直接関わらない部分は制限をしていくこととします。９月８日（水）に予定していたフリー参観は、２学期始めの子どもたちの学習の様子を保護者の皆さんにご覧いただく大切な機会だったのですが、外部から学校内へ感染源を持ち込まない、人流抑制の観点から中止とさせていただきました。今後もこのような対応をとったり活動の制限を設けたりすることがあると思われますが、感染防止のためにご理解いただきたいと思います。

「ふよう基金」をご存じですか？

「ふよう基金」とは、学校に教科書を納入してくださっている酒井書店さんが、地域の子どもたちの役に立ちたいという思いから、図書を購入するために設けられた基金のことです。毎年、糸魚川市内の小・中・高・特別支援学校に、全国や新潟県の課題図書などを寄贈してくださっています。この取組は、平成２９年に他界された酒井書店社長 酒井久和さん の母“酒井ふよう”さんの「地域に貢献したい」という志を受けて始められたそうです。「ふよう基金」の“ふよう”は、母の名前から付けられたと言います。平成３０年にスタートし、今年で４年目になります。

ひすいの里総合学校の場合は、課題図書ではなく、学校職員が事前に図書目録から子どもたちが興味をもちそうな本を選択してリクエストします。今年は以下にある１１冊の絵本が届きました。どれも子どもたちの生活に結び付いた内容のものです。中には仕掛け絵本もあり、見て・読んで・操作して・楽しむことができます。「読書の秋」に、ふさわしいプレゼントです。大々感謝です。